

沖縄県黒島方言の音節一覧・助詞・談話資料

原田走一郎(与那国町教育委員会)

荻野千砂子(福岡教育大学)

1. はじめに

本稿は、南琉球八重山黒島方言の音節一覧，助詞（格助詞，取り立て助詞）を示し，談話資料2篇（自由談話「結願祭」と「桃太郎」）を掲載する。

まず，黒島と黒島方言の概要を示す。黒島は八重山諸島の中心部である石垣島から南南西の位置にある。以下の地図に示すとおりである（図はトマ・ペラルル氏の作成による）。

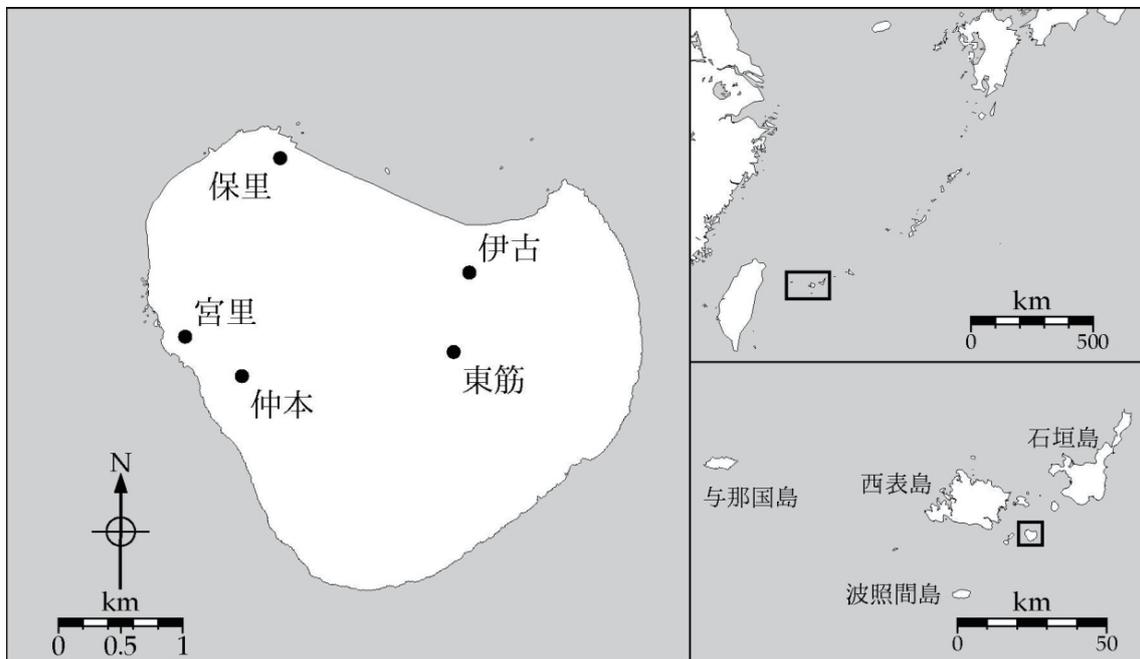


図1 黒島の位置

黒島方言は、八重山語の方言であるが、近隣の島々の方言との相互理解はないようである。黒島方言の話者はほぼ全員が75歳以上であり、多く見積もっても45名ほどであり、消滅の危機度は高い。島内には、東筋集落、保里、仲本、宮里の集落がある。伊古は、糸満からの移住者が多く住んでいたため、黒島方言とは異なっているという。かつては、黒島内で集落間の移動が少なかったらしく、集落間での方言差がある。話者によると、保里・仲本・宮里の3集落は似ているが、東筋は異なっているという。そのため、データは複数の集落が混じらないよう気をつけている。音節一覧は保里方言話者からのデータ、格助詞・取り立て助詞と談話資料は東筋方言話者からのデータである。

2. 黒島方言の音節一覧

まず、黒島方言の音節の特徴について述べる。基本的には(C)Vであり、音節上、複雑ではない。ただし、いくつか注意すべき点がある。一点目は、コーダがある場合である。コーダには/n/か/r/しかたたない。もう一点は、語頭に、子音の連続がある場合である。その場合の語頭の子音は、/m, n, s, z, f, v/のみである。このうち、/s, z, f, v/は語頭の二重音としてのみあらわれる。/m, n/も二重音であられるが、それとは別に、/mb, ng, nk, nz/も可能である。しかし、これら以外の組み合わせは不可能であるため、限定されていると言える。

以下の表に黒島方言の音節一覧を示す。今回は、軽音節のみの用例をまとめた。空欄は、これまでに存在が確認されていないものである。音素/c/は音声[ts]である。ただし、母音iの前では音声は必ず[tei]となる。よって、[tei]を/ci/で表すこととする。母音eの前では[tse]～[tee]で揺れる。[te]の場合は、/cy/を用いて口蓋化していることを示す。よって、[tse]の音素表記は/ce/, [tee]の音素表記は/cye/とする。

表1 母音 i

	i		
子音なし	isa	itu	izu
	医者	糸	魚
p	pinuci	pin, pir	pibira
	日	にんにく	足
t	tir, tin	tida	situmuti
	ざる	太陽	朝
k	kin	bikidumu	iraki
	着物	男	うろこ
b	bikidumu	meesabi	biaha
	男	朝ご飯	私たち (包含)
d	yadin		
	必ず		
g	gisuku	gira	hagi
	石積み	シャコガイ	影
c	naci	fuci	inuci
	夏	口	命
f	uffi		
	溺れる		
s	siwaa	guusi	hasi
	心配	酒	加勢
h			

v	vvi	havi	
	降り	かぶれ	
z	hazi	zin	ziru
	風	お金	いろり
m	mizi	hami	fudaccami
	水	亀	やもり
n	nni		
	胸		
r	maari	uri	saari
	まり	これ	連れ去る
y			
w			

表2 母音 e

	e	
子音なし		
p	pekku	
	百	
t	uvatte	bante
	あなたの家	自分の家
k	piirakehen	
	涼しい	
b		
d		
g		
c	tacce(taccye か?)	
	だれかの家	
f		
s		
h	piirakehe	abarehe

	涼しい	きれい
v		
z	zen	
	知っている	
m		
n		
r	abarehe	
	きれい	
y	ye	yen
	おい!	来年
w		

表3 母音 a

	a		
子音なし	acca	amaza, amazi	abu
	明日	頭	母
p	pana	giipa	pada
	鼻	かんざし	肌
t	taku	sita	tammunu
	タコ	砂糖	薪
k	nkaza	sikara	tuka
	むかで	力	十日
b	bata	bahaha	buuba
	腹	若い	おば
d	adani	tida	
	アダン	太陽	
g	gaba	gazan	hangan
	あか	蚊	鏡
c	fudaccami	funca	irabuca
	やもり	廊下	イラブチャー
f	maffa	guffa	
	枕	重い	
s	saba	saba	garasa
	サメ	ゾーリ	からす

h	maaha	hata	naha
	おいしい	肩	中
v	uva	siva	遅い
	あなた	心配	niva
z	zan	haza	zza
	ジュゴン	におい	草
m	kuma	maya	mami
	ここ	猫	豆
n	nabi	nada, nadan	isanaki
	なべ	涙	石垣
r	sikara	araku	haara
	力	歩く	瓦
y	yama	yana	
	山	ダメな	
w	hawari		
	変わる		

表4 母音 o

	o		
子音なし			
p	pocca		
	包丁		
t	hatosi	zotto	
	ハトシ (魚)	いい	
k	gakko		
	学校		
b	uboho		
	大きい		
d			
g			
c			
f	voffo		
	黒々		
s	zosso	iso	bason

	白々	海辺	場所, 時
h	uboho	zooho	
	おおきい	白い	
v	voffo		
	黒々		
z	zosso		
	白々		
m			
n	minossa	wunoho	
	蓑笠	九日	
r	uboho	yooha	
	大きい	四日	
y			
w			

表5 母音 u

	u		
子音なし	usi	uboho	un
	牛	大きい	芋
p	puni	pusi	pusu
	骨	星	人
t	tuzi	butu	tuman
	妻	夫	浜
k	taku	fukun, fukur	心
	たこ	袋	kukuru
b	budun	buzasa, buza	kibusi
	踊り	おじ	煙
d	du	hadu, adu	midumu
	ぞ(取り立て助詞)	かかと	女
g			
c			
f	funi	fuci	saifu
	船	口	大工

s	suucizuu	maasu	sudi
	大潮	塩	そで
h			
v	vui	vvuku	havu
	降る	黒い	かぶる
z	zzuku	izu	yaaninzu
	白い	魚	家族
m	situmuti	mun	muci
	朝	麦	餅
n	sinu		inuci
	つの		命
r			
y	yunan	yudar, yudan	
	与那国	よだれ	
w	wunoho		
	九日		

表 6 その他の音節

mma	馬
nni	胸
zzu	糞
vva	子ども
ssana	傘
ffun	釘
ngehe	苦い
nziru	出る
nku	剥く
mbusi	蒸す
in	犬
tur	鳥

3. 黒島方言の格助詞・取り立て助詞

黒島の格助詞と取り立て助詞について述べる。東筋集落の話者2名に調査協力をお願いした。以下の格助詞と取り立て助詞は、現在明らかになっている範囲での記述である。

3. 1. 格助詞

3. 1. 1. 格助詞 nu

①動作主

共通語では「が」に該当する。主格の用法がある。

- (1) koocoo+sinsii=nu=du funi=hara ur-i waar-u=waya.
 校長先生=NOM=FOC 船=ABL 下りる-SEQ なさる-NPST=SFP
 校長先生が船から下りなさったよ。

②連体修飾

共通語では「の」に該当する。属格の用法がある。

- (2) kuzu usitu=nu syogakkoo=nu sinsii=he nar-e=waya.
 去年 妹=NOM 小学校=NOM 先生=ALL なる-PFV2=SFP
 去年、妹が小学校の先生になったよ。

ただし、代名詞 uva (あなた) や固有名詞, sinsii (先生) など、呼びかけ詞として使用できる名詞の場合は, nu とわずに, 名詞末の母音を一拍分伸ばすことで代用している。その際, 母音が a であれば音声として aa となり, i の場合は, ii が ee となり (例: 先生 sinnsi=i→sinse=e), 母音が u の場合は oo となる (例: 蝟 taku=u→ tako=o)。

- (3) sinse=e tii=nu ubohor-i waar-u=ra.
 先生=GEN 手=NOM 大きい-SEQ いらっしやる-ADN=SFP
 先生の手は大きいですね。

3. 1. 2. 格助詞 yu

①対格

共通語では「を」に該当する。対格 (目的格) の用法を持つ。

- (4) unu uwagi=yu tookyo=na nisen+en=si=du ha-ya=dora.
 この 上着=ACC1 東京=LOC 二千円=INST=FOC 買う-PFV2=SFP
 この上着を東京で 2000 円で買った。

②強調

共通語では該当する語がない。次の例は, 「誰が来るの?」と聞かれて「先生が来るよ。」と答える場面である。yu は動作主を表すと同時に焦点の用法があるのではないかと考える。

よって、取り立て助詞と見るべきかもしれない。

- (5) sinse=yu isanake=hera kyuu waar-un=dora.
 先生=FOC 石垣=ABL 今日 いらっしゃる-NPST=SFP
 先生 がね, 石垣から今日いらっしゃるよ。

3. 1. 3. 格助詞 ba

共通語では「を」に該当する。対格（目的格）の用法を持つ。

- (6) ziroo=ya habi=si=du koinobori=ba sukur-i buu=do.
 次郎=TOP 紙=INST=FOC 鯉のぼり=ACC2 作る-SEQ PROG=SFP
 次郎は紙で鯉のぼりを作っている

3. 1. 4. 格助詞 na・n

共通語の「に」と「で」と「を」に該当する。

①存在の場所

共通語では「に」に該当する。存在の場所を表す。

- (7) hanako=o nzu=nu=du jaa=nu ui=na pus-sar-i b-ee.
 花子=GEN 布団=NOM=FOC 家=GEN 上=LOC 干す-PASS-SEQ いる-PFV2
 花子の布団が屋根の上に干してある。

②動作を行う場所

共通語では「で」に該当する。動作主が行う場所を表す。

- (8) unu uwagi=yu tookyo=na nisen+en=si=du ha-ya=dora.
 この 上着=ACC1 東京=LOC 二千元=INST=FOC 買う-PFV2=SFP
 この上着を東京で2000円買った。

また、動作を行う場所として、共通語では「を」に該当する用法がある。以下の例のように、通過点を表すように見えるが、「家の前の道を通る。」のときは na は使用できない。よって、「歩いている」動作を行う場所を na が表しているものを考えられる。

- (9) pataki=nu naha=na arak-i buu=do.
 畑=GEN 中=LOC 歩く-SEQ PROG=SFP
 畑の中を歩いているよ

③動作の着点

共通語では「に」に該当する。動作の着点を表す。

- (10) funi=na nuur-i=ti par-a=ra.
 船=LOC 乗る-SEQ=CVB 行く-INT=SFP
 船に乗って行こう

④時間

共通語では「に」に相当する。時刻を表す。

- (11) situmuti rokuzi=na fuk-ida=dora.
 朝 六時=LOC 起きる-PFV1=SFP
 (今日の) 朝, 六時に起きたよ。

⑤動作の目的

共通語では「に」に相当する。動作の目的を表す。

- (12) asabi=n ku-u-ban misan?
 遊び=LOC 来る-NPST-CNC よい
 遊びに行ってもいいか?

3. 1. 5. 格助詞 ni・n

①対象を表す

共通語の「に」に該当する。与格の用法を持つ。

- (13) hanako=ya paa=n=du aai n-een=waya.
 花子=TOP おばあさん=DAT=FOC あれほど 似る-PFV2=SFP
 花子はおばあさんによく似ている。

②受け身文の動作主

共通語では「に」に該当する。受け身文の動作主を表す。

- (14) taroo=ya ubuza=n=du iz-ar-itta.
 太郎=TOP おじいさん=DAT=FOC 言う-PASS-PST
 太郎はおじいさんに叱られた。

また、n の直前の名詞が-n で終わるときは、音声として nin に変わる。

- (15) taroo=ya in=nin=du fo-or-i=waja.
 太郎=TOP 犬=DAT=FOC 噛む-PASS-INF=SFP
 太郎は犬に噛まれたよ。

3. 1. 6. 格助詞 ha

共通語では「へ」に該当する。方向格の用法を持つ。ha は前接する名詞末の母音が a の場合や n の場合や ha であり、名詞末の母音が i の場合は he となり、母音が u の場合は ho となる。

- (16) uri=yu sinse=he uyah-ai=yo.
 これ=ACC1 先生=ALL 差し上げる-IMP=SFP
 これを先生にあげなさい。

3. 1. 7. 格助詞 hara

①起点

共通語では「から」に該当する。奪格の用法を持つ。起点を表す。

- (17) koocoo+sinsii=nu fune=hara ur-i waar-u-munu mit-tan=dura.
 校長先生=NOM 船=ABL 下りる-SEQ なさる-ADN-NMLZ 見る-PST=SFP
 校長先生が船 から 下りなさるのを見たよ。

②手段

共通語では「で」に相当する。動作を行うための手段を表す。

- (18) fune=hera par-a=ra.
 船=INST 行く-INT=SFP
 船で行こうね。

③並列

共通語では「やら」に相当する。取り立て助詞と考えてもよいかもしれない。

- (19) hon=hara enpicu=hara=du dai=nu ui=na ar-u=waya.
 本=PAL 鉛筆=PAL=FOC 台=GEN 上=LOC ある-NPST=SFP
 本 やら 鉛筆 やら 台の上にあるよ。

3. 1. 8. 格助詞 si

①手段

共通語では「で」に該当する。道具格の用法を持つ。

- (20) banaa kuruma=si par-un=do.
 私.TOP 車=INST 行く-NPST=SFP
 私は車で行くよ。

②原材料

共通語では「で」に相当する。原材料を表す。

- (21) ziroo=ya habi=si=du koinobori=ba sukur-i buu=do.
 次郎=TOP 紙=INST=FOC 鯉のぼり=ACC2 作る-SEQ PROG=SFP
 次郎は紙で鯉のぼりを作っている。

3. 1. 9. 格助詞 tu

共通語の「と」に該当する。共格の用法を持つ。

- (22) hanako=tu kaori=tu mucumasan=do.
 花子=COM 香=COM 仲良い=SFP
 花子と香と仲がいい。

3. 1. 10. 格助詞 ti

共通語の「と」に該当する。引用の用法を持つ。

- (23) biyaha futaan=ni sudutir-i=yoo=ti iz-i.
 私達 二人=DAT 育てる-IMP=SFP=QUOT 言う-SEQ
 私達二人に育てなさいと言って……

3. 1. 11. 格助詞 kin

共通語では「より」に該当する。比較の用法を持つ。音声的に kinna で用いられることが多いが、kin 単独でもよいとされる。

- (24) uri=kin=na kuree masi=dora.
 あれ=COMP=TOP これ.TOP よい=SFP
 あれ よりこれがよい。

3. 1. 12. 格助詞 φ

いわゆる、ハダカ格となる場合が黒島方言にも見られる。この場合、ハダカ格を用いても格助詞を用いてもよいと判断される。

①到達

共通語では「先生になった。」のような到達の「に」は、ハダカ格で表される。格助詞を使用する場合は、方向を表す ha を入れる。

- (25) kuzu usitu=nu syogakkoo=nu sinsii=he/φ nar-e=waya.
 去年 妹=NOM 小学校=NOM 先生=ALL/φ なる-PFV2=SFP
 去年、妹が小学校の先生になったよ。

②対象

共通語では「水が飲みたい。」か「水を飲みたい。」で揺れるところである。「水、飲みた

い] とハダカ格で表す。格助詞を使用する場合は、対象を表す *yu* を用いる。

- (26) *accaha=ti=du* *mizi=yu/φ* *nun-pisa-dar=waya.*
 暑い=CVB=FOC 水=ACC1/φ 飲む.INF-HOP-FOC.COP=SFP
 暑くて水が飲みたい。

3. 2. 取り立て助詞

3. 2. 1. 取り立て助詞 *du*

共通語では該当する語がない。強意を表す。

- (27) *taa=du* *fuu=ya?*
 誰=FOC 来る-NPST=DUB
 誰が来るの？

3. 2. 2. 取り立て助詞 *ya*

共通語の「は」に該当する。名詞によって、音声変化を起こす。*baa* (私) の場合は, *banaa* (私は) となる。*banaa=ya* (私は) と, もう一つ *ya* を重ねていうこともできる (石垣四箇字方言にも同様の現象あり)。*mici* (道) のように名詞末の母音が *i* で終わると, *micee* (道は) となり, *taku* (蛸) のように名詞末の母音が *u* で終わると, *takoo* (蛸は) となる。*tun* (鳥) のように *n* で終わると *tunna* (鳥は) となる。ただし, 必ずそうなるわけではなく, 分析的に *ya* を用いてもよい。二重母音の場合は *ya* で現れる。

- (28) *ziroo=ya* *habi=si=du* *koinobori=ba* *sukur-i* *buu=do.*
 次郎=TOP 紙=INST=FOC 鯉のぼり=ACC2 作る-SEQ PROG=SFP
 次郎は紙で鯉のぼりを作っている。

3. 2. 3. 取り立て助詞 *n*

共通語の「も」に該当する。添加を表す。

- (29) *itten=naa=nu* *mata* *teekyoo* *budur* *uri=yu=n* *si-i*
 一点=LMT4=GEN また 提供 踊り それ=ACC1=ADD する-SEQ
 (結願祭りでは各御嶽から) 一点ぐらいの提供踊り, それをもして……

3. 2. 4. 取り立て助詞 *baak i*

①時間の限界

共通語では「まで」に該当する。限定の用法を持つ。取り立て助詞 *ya* が下接した *baake* が多く使用される。

- (30) acca=baaki mat-i=ba.
 明日=LMT1 待つ-IMP=SFP
 明日 まで 待て。

②添加

共通語では「まで」に相当する。添加の用法を持つ。iiyar とは、通常の土産とは異なり、自分が作ったものや、用意したものを指す。

- (31) iiyar=n taboor-er-u=nu=du zin=baaki taboor-ee.
 手土産=ADD 頂く -PFV2-ADN=ADVRS=FOC お金=LMT1 頂く -PFV2
 手土産だけでなく、お金 まで 頂いた。

3. 2. 5. 取り立て助詞 tanka

①限定（1）

共通語では「だけ」に相当する。限定の用法を持つ。

- (32) hanako=tanka=du k-ee=waya.
 花子-LMT2=FOC 来る-PFV2=SFP
 花子 だけ が来たよ。

②限定（2）

共通語での「しか」に該当する。共通語での「A しかない。」の言い方は、「A ほどある。」の構文に言い換えられる。

- (33) hyaku+en+dama=tanka=du ar-u=waya.
 百円玉=LMT2=FOC ある-NPST=SFP
 100 円 しか 持ってない。

3. 2. 6. 取り立て助詞 bahar

①程度

共通語での「ほど」に該当する。おおよその量を表す用法がある。東筋集落では、音声形として bahara・bahan もある。

- (34) iciman+en=bahar harah-ai=ba.
 一万円=DEG 貸す-IMP=SFP
 一万円 ほど 貸せ。

②限定

共通語での「だけ」に該当する。限定の用法を持つ。

- (35) ai=bahara=du nohor-ee.
 これ=LMT3=FOC 残る-PFV2
 これ だけ 残っているよ (酒の瓶を見せて言う)。

3. 2. 7. 取り立て助詞 naa

共通語では該当する語がない。(36)の場合は「ずつ」が該当しているが、むしろ分量を区切る用法を持っていて、共通語では「だけ」が最も近いのではないかと考える。

- (36) imeemi=naa hakob-i=ba.
 少し=LMT4 運ぶ-IMP=SFP
 少し ずつ 運びなさい。

3. 2. 8. 取り立て助詞 naaka

共通語では「なら」「ぐらい」に該当する。仮定条件を表すので naaka の基の形式としては、取り立て助詞の naa にコピュラの aru がついた、na akka(arukka)かもしれない。

- (37) iciman=naaka viir-un=doo.
 一万円=LMT5 あげる-NPST=SFP
 一万円 なら あげるよ。

3. 2. 9. 取り立て助詞 ssan

共通語では「さえ」に該当する。軽いものを例として上げて、それより重いものを類推させる。音声として[ssan]~[ccan]で揺れる。東筋集落では[ssan]の方が多いようである。ssan の直前にコピュラ yar が付いたと見られる、ya-ssan の形式でも用いられる。「でさえ」相当の言い方ではないかと考えている。(39)のように、名詞末の音節と融合する。

- (38) midumunu=ssan nar-un=doo.
 女=LMT6 なる-NPST=SFP
 女 さえ できるよ。

- (39) mizyee=ssan num-an-un.
 水.COP=LMT6 飲む-NEG=NPST
 水 でさえ 飲まない。

3. 2. 10. 取り立て助詞 kka

共通語の対訳では表せないことも多い。「か」に該当することもある。不定を表す。

- (40) uri=kka nuu=ya?
 それ=INDF 何=DUB
 それは何か？

3. 2. 1 1. 取り立て助詞 *uran*

共通語では「くらい」に該当する。おおよその量を表す。*uran* は名詞である可能性もあるが、今回は品詞の性質に関する調査を行う時間がなかったため、一応、取り立て助詞として用例をあげておく。

- (41) *nuu=nu=uran=du nohor-ee=ya?*
 何=GEN=DEG=FOC 残る-PFV2=DUB
 どの くらい 残っているか？

* グロス一覧

ABL	ablative	奪格	LMT 1	limitative	限定(baaki)
ACC1	accsative	対格(yu)	LMT2	limitative	限定(tanka)
ACC2	accsative	対格(ba)	LMT3	limitative	限定(bahar)
ADD	additive	添加	LMT4	limitative	限定(naa)
ADVRS	adversal	逆接	LMT5	limitative	限定(naaka)
AND	adnominal	連体	LMT6	limitative	限定(ssan)
ALL	allative	向格	LOC	locative	場所格
CAUS	causative	使役	NEG	negative	否定
CLS	causal	理由	NOM	nominative	主格
COMP	comperative	比較	NMLZ	nominalizer	体言化
COM	comitive	共格	NPST	nonpast	非過去
COP	copula	コピュラ	PAL	parallel	並列
CNC	concessive	譲歩	POT	potential	可能
CVB	comverb	副詞節	QUOT	quotative	引用
DUB	dubitative	疑問	PASS	passive	受身
DAT	dative	与格	PFV(1)	perfective	完了(ida)
DEG	degree	程度	PFV(2)	perfective	完了(eer)
FOC	focus	焦点	PROG	progressive	進行
GEN	genitive	属格	PST	past	過去
IMP	imperative	命令	SFP	sentence final particle	終助詞
INDF	indifinit	不定	SEQ	sequential	継起(テ形)
INF	infinitive	連用(不定)	TOP	topic	主題
INST	instrumental	具格	+		複合境界
INT	intentional	意志			

4. 自由談話

東筋集落話者二人による自由談話を記述する。黒島の東筋集落にて毎年9月に行われる「結願祭」について、結願祭の昔と今を比較しながら話をして頂いた。

A: kicugan na kka rokunici ti sita

結願祭は六日だった？

B: rokunici

六日

A: rokunici ya kka gonici nu

六日だったら五日の

B: yungumur

夜のおこもり

A: nanzye hera nara gogo

何時からなのか 午後

B: sanzi

三時

A: sanzi nu maa hara mainusukuyaa na

三時くらいから 前野底やーに

B: sanzye hera du mainusukuyaa na acamariti sukasa tiziri nu

三時から 前野底やーに集まって ツカサ，ティジリが

A: kami sukasa nu surai waari han nu suu ba sii waari

カミツカサがそろいなさって 神事に関する話し合いをなさって

B: kami sukasa nu surai waaru munoo soo

カミツカサがそろいなさるのは そう

A: unu yuu ya mee unaa yama yama na waari

その夜は 自分自分の御嶽に行って

B: unaa yama yama

それぞれの御嶽

A: yungumar ra

夜ごもりだよね

B: yungumar ba sii

夜ごもりをして

A: yungmar ba siti

夜ごもりをして

B: umana mee akinami nu nigai ba simasiti du

そこで 秋の願いを済ませて

ure hera mata peeziza ha waari

それから また ページ座にいらっしゃって

A: naacaa situmutee mee peeziza na waari

翌日の朝は ページ座にいらっしゃって

umaa mee yuraiza ti izi du kka ya acamari

そこは「ユライ座」と言うか、集まり

B: so yuraiza ha waari

そう 集まる場所に来て

A: unnin du mura hara nu mata sukooru munu nzasi

その時に 村からのまた 作ったものを出し

B: soo soo aiti

そうそう そして

A: asa nu nigai ba simasiti

朝の願いを済まして

B: yaa ha waari

家にいらっしゃって

A: yaa ha hairi waariti mata icizye hera mee

家に帰りなさってまた 一時から

B: zyuunizye hera

十二時から

A: a zyuunizye hera

あ, 十二時から

peeziza ha waari mee buduru kyoon sii ra

ページ座へ集まって 踊り・狂言をするのか

B: ai

はい

A: boo ba uti

棒術をして

B: oo

そう

A: saisyoo ya mee boo du utasiba aiti un hara du mata mee

最初は棒術を打たせて そして それからまた

biaha sima nu mee kicugan muraa mee suban ti izi

私たちの島の 結願, 村は すばんとって

B: ai suban

そう すばん

A: uree mee iciban kyoon ti izu muno hora hazimari

それは 一番狂言というものから始まって

hazi hazi nu mee budur yu sii sizye wara

数々の踊りを やるからね

B: ai

そう

A: aiti mata manuma nari ya mee yama hazye hera

そしてまた 現代になつては それぞれの御嶽から

itten naa nu mata teekyoo budur uri yu n sii

一点くらいの 提供のおどり それをもして

uri naa du mee gakkoo nu sinka n itten na mee sii waaru wa
そこに学校の仲間(教職員)達も 一点ぐらい提供していらっしやた

uma nu bahan nu gyoozi ba du kka mee sii buru aranun
ここのところの行事をしているんじゃないか

B: mukasyee ya mee syeenenki ni
昔はもう 青年達に

mata fuzinki anu mudunki nu uraha tturi
また女性, 女性達も多かったから

A: budur
おどり

B: buduru kyongin ya ti izi
踊り狂言は という

mura hara unigai ba sii
村から お願いをする

uma na du mee kyonyaaya kyonyaa
その場で 狂言家は狂言家

buduruyaa ya buduruyaa ba siti
踊り家は 踊り家をして

unu bason du mee ziiponkin
その時分に 地方(じかた)

mata naasukuyaa nu ziisan nu du
仲底家のじいさんが

sima nu iya mura nu kunu
島の いや 村のこの

iruiru nu budun nu sisyo ba nari waari
いろいろの踊りの師匠を おなりになって

keera ha mee naraasi watta ti yu
みんなに教えなさったってよ

A: buduru ya mee siikuba ti izi uree ya
踊りは 飼育場と言って これは

buduruzaa ya kimari beeru nu
踊り座は決まっていたけど

seenen ki nu kyoonyaa ya mee kunu arayaa yu sukuri
青年たちの狂言する場所は この新しい家を作り

waaru zaa ya mee mainen hai cugicugi sukuri waariba
なさる場所は 毎年そういうふうに次々作りなさるので

teekyoo ba sii du kyonyaa ya mee sitta do
提供して 狂言家はしたよ

bantaa mee seenen zidai hara baakee kyonyaa ya
私の青年時代からまでは 狂言家は

B: unu maan na mee yaa sukuraa me mainen ari du butta ra
その頃は 家作りは 毎年あったので

A: ai yu
そうよ

B: psuningin nu uraha tturi
人が多かったから

A: yaa nu du mee bunke sii yaa nu du urahariba
家が分家する家が多いから

B: maruma du mee nanzyuunen ni ikkai
今は何十年に一回

sinsii syee tee yaa ti izuka mee nanzyuunen buri aranun
先生の家というか 何十年ぶりじゃない

A: airiba du yu naatakiyaa nu sukuri kai

だからよ 仲嵩家の作り替え

B: aya kutu hangairiba unu
そういうことを考えると その

A: koominkan na sukuri
公民館を作って

B: maruma mee pusu n pinariti mata maruma manunbaakee
今もう人も少なくなって また今、今までは

yuimaar ti izi keera si du mee yaa yu n sukuri tabootta
ゆいまーるといって みんなで 家を作ってくさった

maruma mee ukeoiseedo nari
今もう請負制度になって

pusun nu pusu nu du ukeoisya nu du ukiti du susumu yunti
一人の人が請負者が受けて 進むから

uri n zinhani nu naanaka naran munu aya hatu yunti du mee
それもお金がないとできないもの そうしたことなので

maruma mee nanzyuunen ni ikkai naa nu yaasukurariba
今は何十年に一回ずつの 家作りなので

kyonyaa yu n mutumirun ti izaban mee
狂言の練習する家も 探そうとしても

psuningin nu burana tturi
人がいなくて

kyongin nun mee suuna nari naanun
狂言もしなくなってしまった

aya mee zidai da du mee nari kii naan ti yu
そういう時代に なってきているよ

A: kyooyuukai nu mee kyooryoku nu aa yunti du biaha mura
郷友会の協力があるから 私たちの村

tanka ya mee kicugan na cuzuki bee
 だけは 結願は続いている

mai ya tti ka mee mura hazi naa
 前は 村ごとに

kicugan nun sii du butta nu du
 結願もしていたけど

pusu nu mura naa ya mee saikin na naana du aru
 よその村では最近はなくなっている

aiti sima kicugan ti uri nu naacaa mee
 そして島結願って それの翌日

asai na waari du icizikan naa ya
 アサイにいらっしゃって 一時間ずつは

mutizikan ti izi uri nu mata zyunban na mee
 持ち時間とって これのまた順番は

iciban na mesitu niban na nahantu
 一番は宮里 二番は仲本

samban na mee puri yoban me naa du me
 三番目は保里 四番目に

biaha murasibi na siiriba
 私たちの村 最後にするので

mee zikangiri si mee icizikan naa ti izi
 時間切りで一時間ずつと言って

yozikanaa ya mee budurituusi du ariba
 四時間ぐらいは踊りっぱなしなので

marumaa mee uri nu du naanun waya
 今はもう これがないよ

B: maruma mee sinka nu burana tturi

今はもう人がいなくて

buduru pusu n buranun

踊る人もいない

A: kyon sii pusu ti n buranun

狂言するという人もいない

B: kyon sii pusu n buranun

狂言する人もいない

kaku utaki nu mee hoonoo teekyoo ti izi

各御嶽の 奉納提供と言って

itten naa mee keera mee duuduu nu wan nu

一点ずつ みんな自分自分の御嶽の

ooen yu siiru cumori sii du mee siihaki buriba

応援をするつもりで やっているの

ure hera fuzinki nu nanten

それから婦人会の何点

mata isanaki kyooyuukai nu nanten

また石垣郷友会の何点

A: kyooyuukai hara

郷友会から

B: nzi ti du mee maruma nu unu kicugansai ya mee

そういうことで、今の 結願際は

yattu si mee sii araku ti yu

やっつとで しているよ

A: ai yu kicugan kyon ti izi

そうよ 結願際の狂言とって

B: aya kutu hangairiba du biaha sima nu kunu

そういうことを考えると 私たちの島のこの

psu nu maridaka nu isikaha mata maruma nu yuu ya mee
 人の生まれる数が少ない また今の世はもう

kookoo hara mee muuru isanake he du paru yunti
 高校からみんな 石垣へ行くので

tabe he paru yunti
 島を出て行くので

hairi furu vanki ti izu munu du pisura ssan buranun wayaka
 帰って来る子供が 一人もないよね

kimuiccaha n ari ya siiru nu du kka mee
 心苦しくはあるけど

nuu du siraririba ya aya zidai tti yu mee yununaha nu du
 なにができるのか そういう時代ってよ、世の中が

A: saikin nari ya mee haiccin na bahamunu nki nu kii maari
 最近はかえって若者たちが 戻って来て

usi n sikanai ya buru wa
 牛も飼っているよ

B: ai du me ningin ti izu munoo tuzibutu sunagariba du
 そういうことで 人間というのは 夫婦が一緒になって

patarakessa n ari pataraki n sii kii genki n nzi
 働きやすくもあるし 働きもしてきて元気も出る

maruma nu baa hara bikidumunki miriba
 今の自分から 男たちを見ると

tuzi n tumana mee araku wa
 嫁も探さないでいるよ

duu yu n miriba du du tti uri yu hangairiba du
 自分を見れば これを考えたときに

nuubasi du ka ra

どういふふうにしたらいいのかな

kunu sima mura atoo nari para ti izi

この島が 村が あとはどうなるのかなと言って

kutu ba umui ya sii sii miri

ことを思っているよ

5. 昔話の黒島方言版：桃太郎

今回は「桃太郎」の話を、東筋集落の話者1名に黒島方言で語って頂いた。

panti du ubuza tu paa tu nu du simai watta tu

昔 おじいさんとおばさんが 住んでいらっしやったそうだ

ubuzaa ya yama ha kii turi

おじいさんは 山へ木を取りに

paa ya mata kyuu ya waasiki nu haiyariba haara ha

おばあさんはまた 今日 天気がよいので 川へ

sentaku suuba du nar ti izi

洗濯しなければならぬと言って

tarai na sentaku munu ba iriti haara ha sentaku si n

たらいに洗濯物をいれて 川に洗濯しに

waree tu

いらっしやったそうだ

paa sentakuba sii beekee du haara nu ui hara

おばあさんが洗濯していると 川の上から

uboobi nu mumu nu nan nu fukeeri ya uti uti fukeeri ya uti uti

大きい桃の実が 浮いては沈み沈み 浮いては沈み沈み

guburukka gurburukka ti izi paa hato ho naari futa tu

どんぶらこ どんぶらこと おばあさんのところに流れてきたよ

paa ya kuree mizirasi munu ti izi kunu momo yu tarai na iriti
おばあさんは珍しいものだなとって この桃をたらいにいれて

kure mee yaa ha muti gii ziisan ubuza tu futaan si du
これは家へもっていき おじいさんと二人で

sookki ba sii taboorarubadu nar tti izi
おやつとしていただかなければならないと

paa ya sentaku tarai na momo ba iri
おばあさんは洗濯タライに 桃をいれ

yaa haa waareta tu
家へいらっしやったそうだ

aikée du ziisan nu mata yama hara tti izi
そうしているうちに じいさんも 山からとって

manuma hairi waaree
いま 帰ってきた

paa ya uzuzá kyuu ya mee
おばあさんは おじいさん 今日は

pirumasi kutu nu du ar ti izi
珍しいことがあったよとって

nuu yariba ya ti izu kee du
何ですかって きいてみると

baa sentaku ba sii bee kee du haara nu ui hara
私が洗濯をしているときに 川の上から

momo nu nan nu du fukeeri ya uti tui fukeeri ya uti uti
桃の実が 浮いては沈み 浮いては沈み

naari futara kuree mee ubuza tu futaan si du
流れてきたので これは おじいさんとふたりで

pisuma nu sokki ba sii taboorarirun tti izi muti kee saa
ひるまのおやつにして 頂こうとって 持って来たよ

ai mizirasi kutu wanna ti izi
それはそれは珍しいことがあるもんだな

ubuza n yurukubi tooka mee pocca tu manaita ba muti kuu ti izi
おじいさんも喜んで さあ 包丁とまな板をもってこいとって

futaan si mee kii kisi mumu yu mee sookki suu ti izu kee du
二人で 切って 桃をおやつにしようと言ったときに

paa ya mata manaita tu manaita tu pocca ba muti kii
おばあさんはまたまな板と まな板と 包丁を持って来て

zoo ubuza uva mee uree kisi waari tti
どうぞ おじいさん あなた これ切ってください

sitara du ubuza aika baa
と言うので おじいさんは そしたら 私が

kisa ti izi muti kii pocca yu zai kee du kee du
切ろうとって 持ってきて 包丁を かまえたときに

momo ya sinaasi bari naan ba
桃は 自然に 割れてしまったわけ

unu naha hara miru kee du biikoo nu faa nu nzi ketta tu
この中から 見たときに 男の子が 出てきたって

paa tu ubuza ya mee yurukubi turi
おばあさんとおじいさんは 喜んで

biaha futaan na vaa nu naanatturi du kamisama nu du
私たち二人に 子供がないので 神様が

biaha futaan ni sudutiri yoo ti izi
私たち二人に 育てなさいよとって

megumi tabooreeru aranun kaya ti umoorita tuki ndu
 恵んでくれたのではありませんかねと 思われたときに

paa kuree mee rippai ni sudatiti
 おばあさん この子をりっぱに育てて

biaha uri n sukanaaru
 私たち この子に養われよう

zoottoo ubuza ai suu ti izi
 いいでしょう。 おじいさん そうしましょうと言って

mainici mee atarasa ba sii
 毎日 かわいがって

paa tu ubuza yurukubi turi bee kee du mee
 おばあさんとおじいさん 喜んでいる間に

kyuu ya kyuu aca a aca tti izi momotaroo ya
 今日は今日 明日は明日っているうちに 桃太郎は

seicyoo ba si mata naa yu
 成長して 名前を

kuree nuuba du sukuba du nar ti izu kutu nari
 なんとか名前をつけなければならないということになって

momo no naha hara nzi keeriba mee momotaroo ti izi
 桃の中から 出てきたので 桃太郎と

naa ya suku ti izu kutu nari
 名前はつけようということになって

nzi keeriba mee momotaroo ti naa ya suku tti izu kutu sii
 出てきたので 桃太郎と名前はつけようということ

naa ya momotaro tti sikita tu
 名前は 桃太郎とつけたって

ure hera mee mainici maini mainici mee atarasa ba si sudati bee kee

それから 毎日毎日 かわいがって育てていると

momotaroo ya taki hudu ni nari rippana seinen ha fudubi tabootta tu
桃太郎は立派な体になって 立派な青年に成長してくれたと

aru tuki aru tuki n du momotaroo ya
ある時 桃太郎は

kure mee ubuza tu paa tu n du unaa mee
えー おじいさんとおばあさんとに 自分は

sikanaari kunu take hudu ni nareeriba
養われて この体格になったので

ubuza tu paa hara nu goon goon yu mee
おじいさんとおばあさんからの御恩，御恩を

haihaba du nariba ti izu kutu si
返さなければならぬのでということ

kyuu ya ubuza tu paa
今日は おじいさんとおばあさん

nuu du masi ti izu munu sikaba du nar ti izu kutu si
どうしたらいいかということを知らなければならぬということ

ubuza tu paa yurabi
おじいさんとおばあさんと呼んで

ubuza paa unaa onegai nu ariba siki viiri
おじいさん おばあさん 自分は お願いがあるから聞いてください

nuu nu onegai nu du ariba ya ti izu kee du
どんながお願いがあるのかねと言って

kuri madi mee paa tu ubuza ha sikanaari
これまで おばあさんとおじいさんに 養われて

duu yun mee take hudu nareeriba ubuza tu paa tu nu
私も 青年になったので おじいさんとおばあさんとの

ubuza tu paa tu nu bungu yu sii uyahaba ti umui buru nu
おじいさんとおばあさんの恩を返したいと 思っているけど

ubuza tu paa nuu du uvatta futaan na masi ra?
おじいさんとおばあさん なにがあなたたち二人はいいか?

syooziki ni mee izi viiri ti sitara
正直に言ってくださいと言ったら

una unataa nigai tu site kunu sima naa ya
自分たちの願いとして この島では

mainen ikkai na un nu kii du unu sima nu
毎年一回 鬼が来て この島の

iciban abarikuru bahamunu ba du saari paru
一番きれいな若者を さらっていく

kunu un yu uva mee taizi si tabooruka zootuu yarunu tti
この鬼を あなたが退治してくれたらいいけど

izu kee du
言うとは

too uri du mee ubuza tu paa tu nu
では それがおじいさんとおばあさんの

nigai tti izu kee du hai ai
お願いですかと言うと はい そう

uri du sii tabooruka zootoora tti izuttara
それをしてくれたら上等よと言ったので

too aikka uree baa taizi siirun
では それならば私が退治します

airunu paa uva baa izu kutu siki waari
だけど おばあさん あなた 私の言うことを聞いてください

mai nu uban ba mikku zyunbi ba sii uma ha muti waari
お米のおにぎりを三つ 準備をして こちらに持ってきてください

uri ba muti baa onigasima ha gii
それを持って 私が 鬼が島に行つて

oni ba taizi ba sii furiba tti sitara
鬼を退治してくるのでと言つたので

paa ya yurukubitturi mai nu nbon ba mikku bentoo ti izi
おばあさんは喜んで お米のご飯を三つ 弁当と言つて

sukooriti momotaro ho batasita ttu
作られて 桃太郎に渡したつて

momotaroo ya pukorasa ti izi
桃太郎は ありがとうと言つて

kuri ba muti onigasima ha pari oni ba taizi ba sii furiba
これを持って 鬼が島へ行つて 鬼を退治してくるので

ubuza to paa ya mee yaa na mati waari ti izu kutu si
おじいさんとおばあさんは家で 待つていらしてくださいということで

momotaroo ya onitaizi sii n ti izi syuppacu syee raasa
桃太郎は 鬼退治しに出発したらしい

ai kee du minato ho ti izi mee araki araku kee du
そうしたときに 港へということで歩いていると

saisyo in nu in nu kiiti du
最初 犬が 犬が寄つてきて

momotaro uva ka kyuu ya maa ha du waara ti izu kee du
桃太郎 あなたは今日はどこへいらっしゃるかと言つて

bana kyuu ya onigasima ha onitaizi si n du par sa
私は今日は 鬼が島に鬼退治しに行くよ

ti izutara

と言ったので

in na banun mee saari waari taboori
犬は 私も連れて行ってください

arirunu uvaa kusi na fubireeru unu mai nu uban yu pusukku taboori
だけど あなたが腰に くくっているそのおにぎりをひとつください

aiyakka uva tumu ba sii onigasima ha mee mazun onitaizi si n parun ti nu kutu nari
そうならば おともして鬼が島と一緒に鬼退治しに行くということになって

uva ka zun ni parun ti izu kee du parun ti izu kutu nari
あなたは本当に行くかと言うと 行くということになって

mai nu ubon ba pusukku in ha batasitara
おにぎりを ひとつ犬に渡したので

pukorasa taboorarituri momotarosan tu mazun onitaizi si n parun yu ti izi
ありがとう いただいて 桃太郎さんと一緒に 鬼退治しに行きますよと言って

tooka mazun para ti izu kutu si
では 一緒に行こうと言うことで

futaar mata paru kee du mai ibemi si
二人また 歩いていると もうちょっとして

san nu du momotarosan mata uva maa ha du waara ti izu kee du
猿が 桃太郎さん またあなたどこへいらっしゃるかと言ったので

unaa ya kyuu ya onigasima ha onitaizi si n ti du tatee
私は 今日は 鬼が島に鬼退治しにと 出発して

aii aikka banun mazun saari waari taboori
そうですか それならば 私も一緒に連れて行ってください

airunu du uva kusi na fubireeru mai nu ubon yu pusukku taboori
だけど あなたが腰に くびっているおにぎりをひとつください

zootto ti izu kutu si sar ha mai nu ubon ba pusukku batasi
いいよということで 猿におにぎりをひとつ渡し

sar tu micaan si minato ho araki araku kee du
猿と三人で港へ 歩いていると

cugee mata kizi nu kitti du
次はまたキジが来て

momotarosan uva kyuu ya maa ha du waara ti izu kee
桃太郎さん あなたは今日はどこへいらっしゃるかというと

unaa ya mee kyuu ya onigasima ha onitaizi si n du paru doo ti izu kutu si
私は今日は 鬼が島に鬼退治に行くよということで

kizi nuna n ba nun mee saari waari taboori ti airunu
キジも 私も連れて行ってくださいと だけど

kusi na fubireeru mai nu ubon yu pusukku taboori ti izu kutu nari
腰に くびっているおにぎりをひとつくださいということになって

too aikka unu mai nu ubon yu uva n taboora ti izi
では それなら このおにぎりをあなたにあげましょうと言って

uva n mazun parun ti izu kee du
あなたも一緒に行くかと 言うと

parun ti nu kutu nari too minato ho sikee
行くということになって ついに 港について

minatu na ya funi nu attara micaan mee yutaan
港には 船があったので 三人四人

unu funi na nuuriti onigasima ha ti izi mee nzi tatee raasa
この船に乗って 鬼が島へと言って 出て行ったって

ai kee du mee dondon cikazuki fuu kee pama na du mee un nu du
そういううちに どんどん近づいて来ると 浜に鬼が

uraari mee waari piinivi ba sii beere raasa
たくさんいらっしゃる お昼寝をしていたらしい

too
よし

kuri yu mitta mumutaroo ya
これを見た桃太郎は

nuubasi suuba du ucca yu taizi siirari ti izi
どうしたら あいつらを退治できるかと言って

uma na mee yutaan nu munu nu soodan ba sii mazu mazye
そこで 四人で相談をして まず、まずは

pazimite pazime mee unu kizi nu gii un nu mii yu siki
最初は キジが行って 鬼の目をつけ

uvaa mee pani nu ariba gitti un nu mii yu siki
あなた羽があるから行って 鬼の目をつけ

cugee mataa sar nu gitti tiipan yu azi
次はまた 猿が行って 手足をひっかけ

mata in na unu ato hara gii pan yu fuippari
また犬は そのあとから行って 足に食いつけ

ti izu kutu soodan nu kimattara aikka mee ai sii kutu izi
ということで 相談が決まったので それではそうするようにと言って

siki mee onigasima ha mee funee siki
着いて 鬼が島に船が着いて

uma hara mee mazu saisyo ya mee kizi nu du gitti
それからまず最初は キジが行って

oni nu mii ba mee siki fuzee raasa
鬼の目をつついたらしいよ

ai kee du oni nu ucca mee mii nu du yamu ti izu bee kee
そして 鬼たちが 目が痛いと言っている間に

san nu gitti uma hama aziccaasi sii bee kee

猿が行って あちこち ひっかきまわってしていると

in nu kitti pan yu fuipparitara
犬が来て 足に噛み付いたので

tootoo mee oni nu taisyoo ya
ついに 鬼の大將は

uree mee unata n na kyuu ya maki sii
自分たちは 今日を負けた

uvata izu kutu sikiba yurasi taboori ti izi
あなたたちの言うことを聞くので 許してください

oni nu taisyoo nu izuttara
鬼の大將が 言ったので

momotaroo ya nucyee tanka ya tasikiru nu
桃太郎は 命だけは助けるけど

kure hara atu unu sima ha
これからあと この島へ

uvata midumunu ba abarehe midumunu ba du mainen
あなたたちは美しい娘を毎年

pusunna unu sima ha saari fuu raasa nu
一人ずつ この島に連れて来ているようだけど

kunu kutoo mata yamirun ti izu kee du
このことはやめるかと言って

oni nu taisyoo ya ure hara ato nuuba syeeru kutu nu araban
鬼の大將は これからあと いかなることがあっても

unu sima hara ya midoo nu ffa yu saari fun ti izu kutu
その島からは 女の子を連れ去って来るということ

suuniba mee yurasi taboori ti izyee raasa
しないので許してくださいと 言ったそうさ

ai yakka mee

そうすると

inuci tanka tasikiriba mata mee maruma hara unu

命だけは助けるからまた 今からこの

kutu mee bassun sukun mamori yo ti izi

こと忘れず守れよと言って

momotaro ya iziti too

桃太郎は言って では

ure hera mata sima ha du par ti izu kee du

これからまた 島へ行くよ言うときに

oni nu taisyoo ya kuree mee kuma hara nu omiyage ti izi

鬼の大將は これは ここからのおみやげと言って

unatta manuma baaki uma hama hara

鬼たちが今まで あちこちから

acameeru takaramono ba du funi nu panturi

集めた宝物を 船にいっぱい

simituri kure mee unata omiyage eriba muti

積んで これは私たちのおみやげなので持って

sima ha waari taboori ti izu tara

島へいらっしゃってくださいと言ったので

momotaroo ya mee yurukubi funi nu panturi omiyage ba mutiti

桃太郎は喜んで 船いっぱい お土産をもって

funi na simiti sima ha ti izi pare raasa

船に積んで 島へと言って 行ったらしい

sima ha sikiti kuruma na unu takaramono ba simiti

島へ着いて 車に その宝物を積んで

ubuza to paa mati beeru yaa ha gii
おじいさんとおばあさんが待っている 家に帰って

paa ubuza onigasima ha gitti mee oni ba taizi ba si
おばあさん おじいさん 鬼が島に行って鬼を退治して

keen doo ti izu kutu si izutara
来たよということだったので

ubuza tu paa ya nada ba utasi yurukubi
おじいさんとおばあさんは涙を落として喜んで

boori boori yakudu du uvaa sudati
よい子だ よい子だ 育てた甲斐がある

izi aiti omiyage ti izi kinginsagoo nu
言って そして おみやげと言って 金銀サンゴの

takaramono ba du uraari tabooretara muti keeriba
宝物をたくさんもらったので 持って来たから

kuma nu simazuu murazuu nu puso ho baki
ここの島中村中の人にかけて

uyahai ti izu kutu si momotaroo ya taboorari keeru
あげなさいということ 桃太郎はもらってきた

kinginsango nu omiyage yu sima nu puso ho keera ha
金銀サンゴのおみやげを 島の人にみんなに

baki viitan tu
分け与えたそう

(参考文献)

- 野原三義(2001)「八重山竹富町黒島方言の助詞」『八重山 竹富町調査報告書』3 地域研究シリーズ No.29 沖縄国際大学南島文化研究所
- 内間直仁(2004)「沖縄県宮古・八重山方言の調査研究－宮古郡下地町来間・八重山郡竹富町黒島方言を中心に－」『平成 14・15 年度 科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書』
- 狩俣繁久(2010)「八重山黒島東筋方言と黒島仲本方言」『平成 19・20・21 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書 琉球八重山方言の言語地理学的な研究』（代表・高橋俊三）